

神社の鳥居にはいろいろな形があるようですが、鳥居の形にはどんな意味があるのですか。

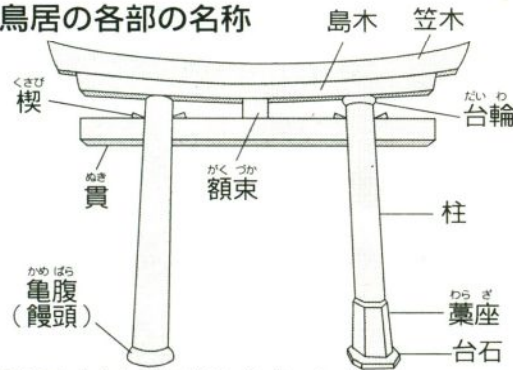
—福岡県、匿名希望さん

# 「何でも神様」多種多様

「鳥居」(光文社新書)の著者、稲田智宏さん(42)に、鳥居の種類や由来、意味などについて聞いた。形は、おおまかに神明系と明神系に分けられる。左右の柱の上部に架かっている横木のうち、上は「笠木」、下は「貫」と呼ぶ。柱も含めた4本でなる基本的な形を神明系といい、柱や笠木の形状などで種類が分かれる。野宮神社(京都市)に代表される黒木鳥居▽靖国神社(東京都千代田区)に代表される靖国鳥居

▽伊勢神宮(三重県伊勢市)に代表される伊勢鳥居——などがある。笠木が2段になっている場合は下の横木を「島木」と呼ぶ。島木があるのが明神系で、神明系以外の多くの鳥居がこれに含まれる。島木と柱が接している部分に「台輪」があったり、笠木と貫の中央に表札のような「額束」が付いて社号が書かれた額が掲げられることが多い。柱の足元に「藁座」「台石」「亀腹(饅頭ともいう)」があった

鳥居の各部の名称



「鳥居」(光文社新書)を参考に作成

り、柱の下の方が広がっているものや、笠木が反って

いる場合もある。「元々はシンプルな神明系だったが、奈良時代ごろに明神系が現れた。そりが入ったりしているのは仏教建築の影響」と稲田さん。天照大神を祭る神社は神明系など一定の傾向はあるが、例外も多く、地域によって同じような形が見られることもある。神官や宮大工、寄進した人の好みで形が決まることもあるという

を祭る神社は神明系など一定の傾向はあるが、例外も多く、地域によって同じような形が見られることもある。神官や宮大工、寄進した人の好みで形が決まることもあるという

また、同じ神社でも時代とともに鳥居の形が変わることがあり、同じ神社に違う形の複数の鳥居があることもある。その神社だけの独特の形もあり、最近では素材にビニールパイプやステンレスなどを使う例もある。「神道自体が『人間にとって尊いものは何でも神様になりうる』という、とてもおおらかな宗教なので、鳥居も形、素材とも多種多様です」と稲田さん。初詣の際、鳥居の形にも目を向けてみると面白いかもしれない。

【石塚淳子】